

常入寺 報恩講

2026 年

10 月 31 日 (土)

午後の座 午後 1 時 30 分～4 時まで

11 月 1 日 (日)

午前の座 午前 9 時 30 分～12 時まで

まよめの座 午後 1 時 30 分～4 時まで

お説教 松井勇さん (南砺市福光町)



お勤め

正信偈とお念仏を勤めます



法話

親鸞聖人のみ教えを聞きます 一座だけのお参りでも大歓迎です



はじめての方もどうぞ

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご命日
をご縁として勤める大切な法要で
す。
皆様とともにお念仏の声を聞き、
親鸞聖人のみ教えに遇いましょう

先祖にであおう 親鸞聖人にであおう

東老田 常 入 寺

富山市東老田 787 ☎076-436-0816



だごぼはん
よりん

報恩講
案内号

今月のことば

もがいてもいい
もがけなくてもいい
その私を見捨てない
それが阿弥陀さまです

御正忌法要

十一月二十二日 (日) 御正忌法要 午前 10 時より

尼講進弔会 午後 2 時より

終了は午後 4 時を予定しています。

※お昼に尼講の御膳付きがあります。(報恩講同様弁当を配布予定です)

法話は午前の部、午後の部の後に当寺位職がいたします。

どなたでもお参りができます

お居間で静かに、あるいはご家族の皆さままで、どうぞお参りください。

そのおままのおたすけ

も、見捨て
ることなく、
はたらき

苦しいことやつらいこと
に出遇ったとき、「何と
かしなければ」と、もが
くことがあります。そこ
から抜け出そうと懸命に
なることもあるでしょう。

だから、もがいてもい
い。もがけなくてもいい。

けれども、いつももがけ
るとは限りません。何と
かしようという気力さえ
なくなり、立ち止まって
しまうこともあります。

「そのままのおたすけ」と
いう言葉があります。「そ
のまま」とは、何もし
なくてもいい、自分は
このままでもいい、とい
うことではありません。

「がんばれ」と言われて
も、がんばれない。前を向
こうと言われても、前を
向くことができない。そ
んな自分を見て、「こんな
自分ではだめだ」と思っ
てしまうこともあります。

仏さまの教えは、そん
な私に「もつとがんば
りなさい」と呼びかけ
るものではありません。

もがいている私も、もが
くことさえできない私

阿弥陀さまは、そんな私が
立派な人間になったら救お
うというのではありません
。迷い、悩み、立ち止
まってしまう私を、そのま
ま見捨てることなく、はた
らき続けてくださいます。

どんな私であっても、見捨
てられてはいない。そのこ
とに気づかされていくと
ころに、念仏の教えがあ
るのではないでしょううか。



親鸞聖人の生涯

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人は、戦乱や災害が相次いだ
平安時代末期から鎌倉時代にかけて、80年のご生涯
を送られました。

誕生と出家（9歳）

1173（承安3）年、親鸞聖人は京都にお生まれに
なりました。父・日野有範は朝廷に仕える役人でした
が、母については詳しいことはわかっていません。

9歳の時、後の天台座主・慈円のもとで出家され、そ
れから80年間、比叡山延暦寺で厳しい修行と学問に
励まれました。しかし、どれだけ修行と学問に励んで
も、さとりに至る道を見出すことはできませんでした。

法然上人との出遇い（29歳）

29歳の時、親鸞聖人は比叡山を下り、道を求めて聖
徳太子ゆかりの六角堂に籠られました。そして95日
目の暁、聖徳太子の夢告に導かれ、法然上人のもとを
訪ねられます。

法然上人は、身分や立場を問わず「ただ念仏もうし
なさい」と説いておられました。親鸞聖人は、この教え
こそすべての人に開かれた仏道であるとうなずかれ、法
然上人を生涯の師と仰ぎ、念仏者として歩み出されま
した。

法然上人のもとで約10年間過ごされ、その間に主著『選
択本願念仏集』の書写と真影（肖像画）の製作を許
されました。また、恵信尼公と出遇い、結婚されたの
もこの頃とされています。

越後・関東での生活（35歳から60歳ごろ）

法然上人の念仏の教えは、老若男女、身分を問わず多
くの人々に広まりました。しかし、興福寺や延暦寺な
どから強い反発を受け、朝廷による弾圧が行われます。

報恩講とは

宗祖・親鸞聖人のご法事である「報恩講（ほうおんこう）」。「古くから地域や家庭では「ほんこはん」「報恩講様」と親しみを込めて呼ばれ、浄土真宗の門徒にとつて、一年の中で最も大切にされてきた仏事です。

この法要の歴史は、親鸞聖人がご往生されてからまもなく始まり、七百五十年以上もの間、勤め続けられてきました。戦乱の時代であっても、天災や疫病に苦しむ年であつても、その歩みが途絶えることはありませんでした。

そして報恩講は、本山や別院といった大きなお寺だけで勤められてきたものではありません。地域のお寺はもちろん、それぞれの門徒の家庭でも勤められ、先祖から子へ、孫へと受け継がれてきました。

では、なぜこれほどまでに長く、この仏事が大切にされてきたのでしょうか。

報恩講は、親鸞聖人によってお念仏が私へと伝わったことに感謝し、親鸞聖人をはじめ、本当にたくさんの方々によって今日まで喜び、伝えられてきた「感謝の歴史」を尋ねるご縁でもあるからです。

親鸞聖人が伝えてくださったお念仏。それが何百年もの時を超えて今の私にまで届くために、どれほど多くの人々の歩みや願いがあつたことでしょうか。名もなき多くの人々、そして我が家の先祖たちが、日々の暮らしの中で「南無阿弥陀仏」を称え、手渡してくれたからこそ、今の私がお念仏に遇うことができます。

「ようこそ、今年もほんこはんを勤めることができました」

今年も報恩講をご縁に、お

念仏を伝える長い歴史のなかに私も生かされている有り難さを、共に味わわせていただきますように。



【お知らせ】

お寺の横の駐車場に銀杏の木があり、10月を過ぎると実が徐々に落ちてきます。皆様にお裾分け、自宅へ食べたいものを分けてください。（お寺に必要ありません）

その結果、4人が死罪、8人が流罪となり、法然上人は土佐（現在の高知県）へ、親鸞聖人は越後（現在の新潟県）へ流されました。35歳の時でした。5年後、流罪を許された親鸞聖人は、やがて関東へ向かわれます。そこで約20年間、常陸（現在の茨城県）の稲田を中心に、念仏の教えを伝えられました。また、この地で主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）を書き始められたとされています。

京都での生活（60歳ごろから90歳）

60歳ごろ、親鸞聖人は関東から京都へ戻られたといわれています。

その後、関東では念仏の受けとめをめぐって混乱や対立が起こりました。そのなかで、長男・慈信房善鸞と親子の縁を切るという悲しい出来事もありました。

親鸞聖人は『教行信証』を書きすすめるとともに、同朋・同行に手紙や書物を送り、念仏の教えを伝え続けられました。

1263年1月16日（弘長2年年11月28日）、親鸞聖人は90年の生涯を終えられました。末娘・覚信尼公ら家族や門弟たちが最期を看取り、葬儀を行ったといわれています。

遺骨は大谷（現在の京都市東山区）に納められ、後に廟堂が建てられました。そこには関東をはじめとする門弟たちが参拝し、聖人をしのび、その教えを聞き続けました。

その歩みが、現在の東本願寺・真宗本廟へと受け継がれています。

※弘長2年2月28日は、現在の暦では1263年1月20日にあたります。真宗大谷派では「二月28日」を親鸞聖人のご命日としていただき、報恩講をお勤めしています。

お寺でお葬式をしませんか

私が子どもの頃は、お寺を会場にしてお葬式が勤まる
ことがよくありました。

昨今は葬儀ホールが各地にでき、冷暖房も完備され、
さまざまな設備やサービスも整っています。とても便利
ですし、私も葬儀ホールでのお葬式を否定するつもりは
まったくありません。

ただ、葬儀にかかる費用が気になる方や、身近な方だ
けで小規模なお葬式をしたいと思っておられる方には、
「お寺の本堂でのお葬式」という選択肢もあります。

お寺の本堂は、葬儀のためにつくられた施設ではあり
ません。冷暖房も完備していませんので、真夏や真冬に
は適していませんし、葬儀ホールのような至れり尽くせ
りの設備やサービスもありません。

その一方で、日頃お参りしている阿弥陀さまの前で、
亡き方をご縁として、家族や身近な方々とともにお勤め
をすることが出来ます。いわゆる「家族葬」と呼ばれる
ような、参詣される方の少ないお葬式には、本堂はちよ
うどよい場所ではないかと思っています。

本堂を使用するための決まった料金もありません。お
気持ちで結構です。

「お寺でお葬式をしてみようかな」と思われましたら、
葬儀会社さんとの打ち合わせの際に、「お寺でお葬式が
したい」とお伝えください。

葬儀ホールだけでなく、お寺の本堂で送るといふ選択肢
もあることを、覚えておいていただければと思います。

お道具磨き

10月18日(日)午前9時～11時

報恩講をお迎えするにあたって仏具を皆さんと
一緒に磨きます。尼講の方々を中心として行い
ますが尼講員でない方もよろしければご参加く
ださい。男性の方もご参加ください。大歓迎で
す。
よろしければ磨き用のタオルを一枚ご持参ください。

<御願い>

報恩講と御正忌法要を当寺で勤めさせていただきますので、

10月30日～11月1日、11月22日は皆様のお宅への**月参りは休止し、**

報恩講、御正忌法要のお勤めと併せて本堂にてお勤めさせていただきます。是非とも報恩講、御正忌法要
にお参りください。ご理解いただきますよう御願いたします。

またどうしてもと言われる方は前もってお寺まで電話ください。日時の変更など対応させていただきます。

常入寺ウェブサイトリニューアル

年早見表を新設

リニューアルに伴い今年は何
何回期にあたるのか、次の
年早見表いつなのかという
ことがひと目でわかる計算
ツールのあるページを新設
しました。よろしければご
利用ください。



常入寺のウェブサイトを
(ホームページ)をリニュー
アルしました。特にスマー
トフォンから見やすいよ
うにということを意識して
組み直しました。言うまで
もなくパソコンからもいま
で通り見ることができま
す。よろしければのぞき
に来て下さい。左側のQR
コードをスマホで読み
込むか、「ごぼ
はん 常入寺」
と検索下さい



発行 真宗大谷派 常入寺

電話 930-0161 富山市東老田787
(076) 436-0816
発行責任 青井 和成
住職携帯 090-3764-3983



LINEはこちらから↓
✓お参りの変更
✓法事の相談
✓その他
いちごからでも大丈夫

